

マスジェドにおける現在のズィールー (綿製敷物) の使用状況

—イラン・ヤズド州メイボドおよび近郊の事例から—

吉 田 雄 介

The Current Use and Present State of the *Zilus* (a Traditional Cotton Rug) in Masjed (Mosque), etc.:

A Report on Several Cases from Meybod and the Surrounding
Areas in Yazd ostan, Iran

YOSHIDA Yusuke

This paper presents a survey of the present state of use of the *zilu* (cotton carpets) traditionally donated to sacred places in the Meybod region and surrounding areas of Yazd *ostan* in Iran. The names of the donors, the year of the donation, and other data are woven into these *zilu*. Study of these brief texts provides us with a variety of information. The author has collected such information from more than 200 *zilu* from 14 *masjed* and *imamzade* (mausoleum) and surveyed the conditions of their use in these places.

Analysis of this information has produced the following conclusions: (1) Of the *zilu* surveyed, about 60 percent dated to the latter half of the twentieth century. (2) Even so, *zilu* donated as far back as the 17th century were still in use alongside the more recent donation. (3) At present, in many cases newly machine-woven carpets have been laid on top of the *zilu*, concealing them from view. (4) In rooms less frequented by people, the *zilu* are being used without such new covering. (5) Since the Islamic Revolution, the importance of *masjed* has increased and they have grown in size and number. As a result, *zilu* donated to neighboring *imamzade* are being used in the *masjed*.

I 本稿の目的

イランのマスジェド（モスク）を訪れると、青と白の2色の幾何学模様で織られた敷物を目にする可能性がある。これが綿製の丈夫な敷物、「ズィールー（*zīlū*）」である。現在と違い灯火の暗い時代には、飾り気のないマスジェドの内部で、この敷物はさぞかし神秘的な場所を演出したのではなからうか。このズィールーの現地での使用状況を確認、検討することが本稿の目的である。

筆者は、これまでズィールーを含めたイランの手織物産地の盛衰について生産者への聞き取りを中心に検討してきた（吉田，2002；2005；2011；2013など）。ただし、生産・流通面を中心に検討したがため、実際にどのような現場で使用されているのかという側面については注意が不十分であり、産地を消費者や利用される場所と切り離して考えるべきでないと反省した。そこで、本稿では、このズィールーというモノ自体の検討をおこなう。その直接・間接の理由は以下の3点である。

まず、実際にどのような状況で現在使用されているのかを確認する必要がある。というのもマスジェドの古いズィールーに関する研究は少なくはないが、新しいものまで含めた研究は案外少ないからである。もちろん、アルダカーン市のマスジェド・ジャーメ・アルダカーン（*Masjed-e jāme‘-ye Ardakān*）にある新旧57枚分のズィールーの寄贈者や寄贈年、デザインなどをリスト化した研究（*Ardakani*, 2006/7, pp. 313-327）もあるが、これは残念ながらたんにリスト化したにとどまる。

また、イランの手工業生産に関しては、日本あるいはイランの近隣のトルコやインドに比べ資史料が乏しく、研究には制約が多い。しかるに、ズィールーに限っては、ワクフ（*waqf*）として寄進されることが多く、その旨を明記した短い文章を織り込んで製作される。それゆえ、この文章を調べれば、ズィールー生産や生産者の歴史をたどることができるのではないかと考えた。モノ自体に注目することで資史料の乏しさを補えるのではないか。

さらに、使用されている古いズィールーを調べれば、過去にいかなる柄や様式が存在したのか、それからズィールー生産にどのような変化が生じたのか、あるいは製作が盛んな時期とそうでない時期というズィールー産地の歴史の山と谷を把握できるのではないかと考えた。

以上が、筆者が生産者や流通ではなく、改めてモノ自体の分析に取り組む理由である。本稿では、ズィールー自体の分析や織り込まれた文章の分析までは触れないが、そうした内容を検討するにはひとまず使用状況の確認こそが重要であると考え、現在どのような状況下でズィールーが敷物として使用されているのかを検討しておきたい。そのために現地で調査を実施し、

全体的な使用状況を確認するために末尾に表を用意した。

なお、先に述べたようにズィールー自体の分析は稿を改めたいが、ズィールーの具体例を若干でも紹介したいと思う。

II 聖なる場所と敷物

ズィールーが聖所にワクフ（宗教寄進財）として寄進されると、ワクフの性質上、朽ち果てるまで長期間使用されることになる。実際、本来の色がわからないほどにあせたり、すり切れ断片化したズィールーを見かけることも少なくない。それでは、イランの聖所とはどのような場所であろうか。ここでは、ズィールーと特に関係の深いマスジェド、イマームザーデ（*Imāmzāde*）、ホセイニーイエ（*Hoseynīye*）、その他を考えておきたい¹⁾。

マスジェドは、たんに礼拝をおこなう場所である。礼拝の時間になると善男善女がここに集い、集団で礼拝をおこなう。礼拝は清浄な場所でおこなう必要があることから、マスジェドの床には敷物が敷かれていることが多い。

こうした場所を訪れても、今では機械織りの化繊製のカラフルなカーペットを目にするばかりである。また今ではメヘラービー（*mehrabī*）²⁾ というメヘラーブを模した柄のマスジェド用の機械織りカーペットも珍しくない（写真1）。しかるに、イランにおける機械織りカーペット生産の歴史は比較的浅く、潮の満ちるようにマスジェドを満たしたのはさほど古いことではない。当然ながら今と昔とではマスジェドの内装と印象は大きく異なったのである。ズィールーを含め、ペルシア絨毯やフェルト、ヤシの葉のむしろ、あるいは機械製の毛布やモケットなど多様な敷物が使用されてきた。いずれにせよ用に忠実かつ美しく、使い勝手がよいものが選ばれたのである。

礼拝の場所という機能は同じでも、マスジェドという場所は多様である。まず大きさの点でいえば、二～三畳のスペースしかないようなマスジェドも少なくなかった一方で、各地にマスジェド・ジャ



写真1：メヘラーブ柄の機械織りカーペット
（付表の⑭の施設）

1) メヘ（ミフ）ラーブとはマスジェドの壁に設けられたアーチ形の壁の窪みであり、マッカの方位を示す。

2) イランの聖なる場所については、上岡（1984）を参照されたい。

ームという集団礼拝をおこなうための規模の大きな建物が存在する。こうした場所はワクフも多く、ズィールーの数も多い。

マスジェドの内部には、余計なものは置かれぬ。広々とした空間こそがマスジェドらしさを具現する。それでもマスジェドの内部は一様ではない。たとえば、男女の別でいえば、一角をカーテンで区切り、女性の区画にしている場合や1階を男性、2階を女性の区画に充てている場合が多い³⁾。

また、現在と違い空調が整っていなかった時代には、気候への対応として夏の部屋 (*sard khāne*) と冬の部屋 (*garm khāne*) にわかれている場合が多かった。それが新しい施設であれば、夏と冬の区別をつけることはなくなり、また従来は夏と冬にわかれた施設であっても、今では一年を通じていずれか一方、つまりサイズの大きい方の部屋のみを用いることが一般的である。そのため、夏の部屋が倉庫状態になっているマスジェドも少なくない。後で使用状況を確認するように、現在では一年を通じて使用される部分を、もともと敷かれていたズィールーの上から機械織りカーペットで覆い尽した結果、ズィールーの存在が一目ではわからなくなっている場所がほとんどである。その一方で、あまり使用されない、つまり人目に触れない夏の部屋にズィールーがそのまま使用されていることが多い。

また、イランではマスジェドの側に、ホセイニーエないシタキエと呼ばれる施設がもうけられていることが多い。これは3代目イマーム、ホセインの殉教などを哀悼する行事を行うための場所であり、シーア派独特の施設である。儀礼祭では、観客が座るためのたくさんの敷物が必要になることは言うまでもない。

なお、聖者を祀った墓廟もイスラーム世界には多いが、イランでは特にイ(エ)マームザーデというイマームの子孫を祀る墓廟が重要であり、各地に存在する(写真2)。マスジェドとは異なり、こうした墓廟は、現世利益を求めて祈る場となってきた。内部は鏡細工できらびやかに装飾されており、落ち着



写真2：イマームザーデの内部
(付表の②)

3) マスジェドの歴史や構造については、羽田(1994)を参照されたい。

いた空間のマスジェドとは大きく異なる。このような施設にもズィールーは床敷きとして広くもちいられている。また、イマームザーデは市民の憩いの場ともなってきた。多くのイマームザーデには墓廟の建物を囲む形で休憩部屋が多数設けられており、こうした部屋にもズィールーが敷かれている。

以上3つの場所について個別の説明をおこなったが、3者の関係は若干複雑である。「数の上でも、イラン全土のマスジドの数倍のイマームザーデが存在する。村によっては、マスジドはなくてもイマームザーデがあり、両方とも存在する場合には、しばしば後者の方が立派である（上岡，1984，161頁）」と言われたが、1979年のイスラム革命後はマスジェドの重要性が増した。メイボド地域においても古いイマームザーデを取り囲むような形でマスジェドが増築されたり（末尾の表の⑥）、大きなイマームザーデのそばに付属する形で存在した小さなマスジェドが改築の際に大型化することで、イマームザーデと一体化（末尾の②）したりと近年の変化が激しい。

なお、ヤズド州にはいまだにゾロアスター教徒（*zardoshī*）の聖地も複数存在し、大祭にはインドや米国を含め海外からも多くの信者が集う。そうした大祭時に集まった人々が使用する敷物としてズィールーが寄進されている。そして、こうしたイスラム以外の聖なる場所に寄進される織物にも、慣例的に「寄進」を意味する「ワクフ」の文字が織り込まれている。

Ⅲ 現在の使用状況の確認

筆者が調査を実施した施設は、第一にズィールー産地の中心地であるバシュニーガーンならびにメイボドに所在するマスジェドやイマームザーデを選択した。次に、比較のために周辺地域の施設を選んだ。なお、マスジェドの敷物は洗濯の折に、配置が変わることがある。また、特に古いズィールーは博物館に収蔵されることや盗難の被害にあうことも珍しくない。したがって、あくまで筆者の調査時点での使用状況ということになる⁴⁾。

以下に、使用状況の検討の前提として、調査を行った14施設の説明を先におこなう。説明の順序は逆になるが、末尾の表も参照していただきたい。なお、ヒジュラ歴を西暦に換算する場

4) 特に大規模ななかば観光地化したマスジェドやよほど田舎のマスジェドを除けば、最近では防犯面から礼拝の時間以外はマスジェドの入口が施錠されている場合が多い。そこで実際の作業としては、鍵の管理人に、鍵を開けてもらい、礼拝と礼拝の時間の間にズィールーのサイズやデザイン、織り込まれた文字などを調べさせていただいた。なお、先にも述べたようにズィールーの上に機械織りのカーベットの敷いていることが多いので、これをどけて作業しなければならない。したがって、作業で礼拝の邪魔をするわけにはいかないので、場所によっては数日に分けて作業を行った。

合、たとえばヒジュラ暦1435年は、西暦では2013年と2014年の2年にまたがるが、ここでは煩雑になるので「2013年」とした。また、年は、基本的にヒジュラ太陰暦で織り込まれるが、最近ではヒジュラ太陽暦で織り込まれる場合がある。ちなみに、ヒジュラ太陽暦の場合は、1393年であれば、2014年と2015年の2年にまたがるが、これも本稿では「2014年」と表記した。

1. バシュニーガン地区

「メイボド」という地域呼称は複数の地理的スケールで使用されるが、ふるくは上メイボド (Meybod-e Bālā)、バシュニーガン (Bashnīgān)、クーチェバグ (Kūche-bāgh) という3つの集落のまとまりを指した。上メイボドはその名のとおりに台地上にあり、あとの2集落は崖の下に位置する。今ではこの3集落は住宅で埋まり、物理的な切れ目がなくなっている。ズィールー生産の歴史的な中心地がこのバシュニーガンであり、比較的近年になってここから周辺集落に広がった。まずはこのズィールー生産のお膝元の施設からみておきたい。なお、現在ではすべての地区が膨張拡大を続け、著しく変貌している。そこで、表には古い数値ではあるが、都市化する前のそれぞれの集落の人口数がわかる1966年センサスの数値を参考に掲げておいた。

(1) マスジェド・ハーフェズ・オ・ハージ・ゼイナル (Masjed-e Hāfez o Hājj Zainal)⁵⁾

このマスジェドは、バシュニーガン地区にあり、名前に示されるように、もともとは別個の独立したマスジェドだったものが、改築される際に一体化した建物である。管理人によれば、まずマスジェド・ハーフェズとマスジェド・ハージ・ナビーが一体化し、さらにマスジェド・ハージ・ゼイナルが一体化したという⁶⁾。

ここでは1階で37枚、2階で8枚のズィールーが使用されていた。サイズは最小のものが100×150cm、最大のものは264×1534cm (西暦1867年) および277×830cm (1769年) のものである。

特筆すべきなのは、現在ズィールーをそのまま使用しているのは、表に挙げた施設の中でここだけであった点である (写真3)。そのまま使用しているとは、ズィ



写真3：マスジェド・ハーフェズ・オ・ハージ・ゼイナル

5) ここでは、人名やマスジェド名のローマ字転写はエザーフェを表記したが、日本語に転写する場合はエザーフェを表記しないでおく。

6) こうした別々のマスジェドの一体化は珍しくない。

ールーの上から機械織りカーペットやモケットなど他の新しい敷物で覆っていないということである。もっとも、これも夏のみのもので、この施設においても冬場は機械織りカーペットでこの上を覆うことになる。したがって、夏場は、写真の左隅に見えるように邪魔になる機械織りカーペットをマスジェドの片隅に積み上げてある。ズィールーはカーペットと違い毛足がなく、材質も綿糸であるため暑い夏に適した敷物である。ただし、カーペットと違い毛足を欠くため、座り心地は劣る。

なお、2階には茶色いモケットが敷いてあり、その下にズィールーが隠れている。

以下の施設でも同様であるが、マスジェドが改築ないし新築されるとそれに合わせて敷物も新調し、新しいカラフルな機械織りカーペットで床を覆うということが一般的である。その結果、古くくたびれたズィールーはその下に隠されることになる。

(2) セイエド・ガンバル (Sayyed-e Qanbar)

セイエド (Sayyed ないし Seyyed) とは、預言者ムハンマドの血筋を引く人びとを指し、イランでは聖者とされている。この場所もセイエド・ガンバルのイマームザーデを中心に、マスジェドとホセイニーエが隣接しており、ホセイニーエの部分を含めれば敷地は非常に広い。もとのマスジェドはイマームザーデのそばでささやかな規模でしかなかった。と



写真4：セイエド・ガンバルの概観

ところが、改築の際にマスジェドとイマームザーデは一体化された。今なおイマームザーデ部分および全体の外装部分は作業が完了していない（写真4）。

イマームザーデの部分もマスジェドの部分も、あるいは中庭のホセイニーエに隣接する部分にも機械織りカーペットが敷き詰められ、その下にズィールーが敷かれている。建物のマスジェドの部分にもズィールーが敷かれているが、マスジェドではなくイマームザーデに寄進されたズィールーが使用されている。それだけイマームザーデが古くかつこちらのほうが重要であることを示している。

他方、2階にはズィールーをそのまま敷いている部分と、機械織りカーペットの下に敷かれている部分があり、一番奥には機械織りカーペットがたたくで積み上げてある。

(3) マスジェド・ミールガフル (Masjed-e Mīr Ghafūr)

ここは比較的小型のマスジェドであり、1階部分には6枚のズィールーが敷かれている。サ

イズの大きいものが多く、それを挙げれば、262×700cm (1848年) と250×755cm (1849年)、270×670cm (1845年) の3枚である。なお、室内に台が置かれているが、その裏側にも2枚のズィールーがしまっていた。2階にも7枚のズィールーが敷いてあるが、こちらはミヒラーブの形状にカットした一枚 (1846年) を除けばいずれも新しいものである。

また、路地をはさんだ向かいに、夏の部屋がある。ここにも新しいズィールーを中心に機械織りカーペットなど多数の敷物が積上げてあったが、倉庫状態になっていたため、調査ができなかった (倉庫に仮置きしてあったものは、同じ地区の改修中の別なマスジェドのもの)。

2. メイボド (メイボド・バーラー) 地区

メイボド地区には複数のマスジェドやイマームザーデが存在するが、そのうちいくつかを調査した。

(4) マスジェド・ジャーメ・メイボド (Masjed-e jāme'-ye Meybod)

このマスジェドは、もとは拝火教寺院 (*āteshkade*) だった場所に建てられたと言われている。夏の部屋と冬の部屋に加えて、施設の背後に細長い一室が設けられているが、普段使用されている冬の部屋の部分には、一年を通じて機械織りカーペットが敷かれており、その下にズィールーが敷かれている。また、ホールの回りの一段高くなった部分の腰をかけることができる場所にもズィールーが敷かれている (写真5)。

他方、普段は使われていない夏の部屋や奥の部屋では、ズィールーがそのまま敷かれている。さらに一部のズィールーは、夏の部屋の奥にたたんでしまっている。すべて合わせると70枚以上のズィールーがあり、調査した施設の中では最大の枚数になる。

ここで最大のズィールーは、285×726cm (1954年) と270×722cm (1824年)、275×709cm (1845) 年のものであり、後の2枚は夏の部屋に敷かれている。なお、奥の部屋には新しいものばかりで、古いズィールーは敷かれていない。

このマスジェドでは、普段は使われていない夏の部屋の部分に、比較的古いズィールーが敷かれている。また、年は入っていないが、メヘラーブの形状に織られた特殊な形のズィールーが敷かれてい



写真5：マスジェド・ジャーメ・メイボド (写真の右手がメヘラーブの方向、なお壁を見ればわかるように、この施設は古い壁を可能な限り残す形で改築してある)

る。これも古い製品であると考えられる。

古いズィールーでは、メヘラーブの形状を柄にして織られることが多かったが、それだけでなく、ズィールー自体の形状をメヘラーブの形状、すなわち三角形に織り上げることもあれば、場合によっては四角いズィールーを後から裁断してメヘラーブの形状に整形することもあった。祈りの場と敷物の関係を考える上で、この形状は興味深い。

(5) マスジェド・ハサンアリー (Masjed-e Hasan-e 'Ali)

ここは(4)のマスジェドに、扉一つで隣接する比較的小規模なマスジェドである。ここにも長さ7mを超えるズィールーが複数枚敷かれている。

(6) イマームザーデイエ・ミール・シャムスアルハグ・メイボド (Imāmzāde-ye Mīr Shams-al-Haq-e Meybod)

メイボドのはずれにある古いイマームザーデであり、宅地化もここまでは及んでおらず今でも周囲に住宅はない。元は古いイマームザーデが立っていたが、これを囲む形で革命後マスジェドが建設された。ここでは古いズィールーは使用されていないが、中央部のイマームザーデとその周囲のマスジェドの境界部分、およびマスジェド部分に使われているズィールーには、イマームザーデに寄進された旨が織り込まれている。

3. メイボド近郊

メイボドは、狭義の意味では先の3集落から成る地域をさすが、同時にこれを中心とする大小合わせて十数の集落のまとまりをさす地域名称でもある。

以下に、このメイボドの周辺に位置するいくつかの集落の施設をみておきたい。なお、メイボドの北にはアルダカーンという比較的規模の大きな町が、そして南東50kmほどのところに州都ヤズド市が位置し、メイボドとヤズド市を結ぶ街道上には大小の町や村が点在する。また、メイボドの西方向に進むと山地にぶつかるが、山裾には少数の町や集落が点在している。

(7) マスジェド・ジャーメ・ノーデシャーン (Masjed-e jāme'-ye Nowdeshān)

ノーデシャーンは、メイボドから西40kmのところに位置し、山地沿いにある比較的人口の多い古い町である。元はメイボドと行政地区が異なったが、現在ではメイボドと同じ地区 (*shahrestān*) に属するようになっている。このマスジェドでも他の場所同様、冬の部屋も夏の部屋も機械織りカーペットが床一面に敷き詰めてある。しかし、この下には30枚近い古いズィールーが敷かれている。19世紀のものが多数敷かれているが、1701年のものも汚れは目立つが今でも立派に敷物として使われている。

(8) マスジェド・ジャーメ・ハフタードル (Masjed-e jāme‘-ye Haftādor)

ハフタードルは、メイボドの北西30kmに位置し、メイボドに隣接するアルダカーン地区 (*shahrestān*) のアグダ地区 (‘Aqdā *dehestān*) にある小さな集落である⁷⁾。

このマスジェドからメイボドのズィールー博物館に古いズィールーが収蔵されたため、その代替としておさめられたイラン暦1375 (西暦1996) 年の年が織り込まれたズィールーが5枚敷かれている。このように古いものの一部は博物館に移されたが、それでも1600年代中期のズィールー2枚がなお健在である。

なお、この集落には有名なイマームザーデがあり、そちらにも比較的古いズィールーが敷かれている。

(9) マスジェド・サーヘブアルザマーン (Masjed-e Sāheb al-Zamān) (ハージーアバード Hājji-ābād)

(10) イマームザーデ・セイエド・ミール・ハサン・ハージーアバード (Imāmzāde-ye Sayyed-e Mir Hasan-e Hājji-ābād)

ハージーアバードは、メイボドから南のヤズド市方向に幹線道路を30kmほど進み、そこから枝道を北に少し入ったところにある古い集落である。地区としては、ロスターグ地区 (*Rostāq dehestān*) に所属し、最寄りの都市としては少し南にアシュケザール市がある。

集落の入口にあるイマームザーデでは、古いズィールーは使用されていなかった。他方、この集落にあるマスジェドでは18世紀後半のズィールーを含めた古いズィールーが使用されていた。ただし、このマスジェドも機械織りカーペットを敷詰めている (写真6)。また、夏の部屋は倉庫状態になっており、一部のズィールーは埃まみれで夏の部屋の隅に積上げてあった。

なお、この集落にもマスジェド・ジャーメがある。こちらのズィールーは一部しかまだ確認していないが、1207 (西暦1792) 年のズィールーがあった。



写真6：マスジェド・サーヘブアルザマーン (なお、カーテンの向こうに夏の部屋の入口がある)

7) *dehestān* を複数包括する地区が *shahrestān* である。

- (11) イマームザーデ・セイエド・カーフィー（Imāmzāde-ye Sayyed-e Kāfi）（カーフィーアーバード Kāfi-ābād）
- (12) マスジェド・セイエド・カーフィー（Masjed-e Sayyed-e Kāfi）（カーフィーアーバード Kāfi-ābād）

この2つの施設は、山間の小さな集落であるカーフィーアーバードに存在する。なお、カザブ地区（Kazāb *dehestān*）にあり、メイボドとこの地区の交通には沙漠のなかの未舗装の道路が昔から使用されてきた。現在は舗装道路を使用することができるが、その場合は一度アシュケザール市に出て、そこから山間部に向かわなければならない、ひどく遠回りになる。

この2つの施設は、それぞれ別個の入口が設けられているが、内部ではドア一枚でつながっており、同じ建物である。ちなみに写真の向かって右手の門がイマームザーデの入口で、左手がマスジェドの入口になる（写真7）。なお、ここは近年になって改築された施設であり、以前の小規模なマスジェドが大型化し、イマームザーデと一体化したもので、イマームザーデの入口には改築記念に2011年に寄贈されたズィールーがカーテンとして使用されている（写真8）。

イマームザーデの内部の床にはメヘラービーの機械織りカーペットが敷き詰められており、またマスジェドの方には通常メダリオンデザインの機械織りカーペットが敷き詰められており、ズィールーは使用されていない。ズィールーはマスジェドのカーテンで区切った女性の区画の片隅に機械織りカーペットや毛布などとともに積み上げられていた。そのうちの一番古いズィールー1枚（1958年寄進）のみが、改築前の古いイマームザーデで敷かれていたものである。



写真7：カーフィーアーバードのイマームザーデとマスジェド



写真8：イマームザーデの入口でカーテンとして使用されるズィールー

(13) マスジェド・マズラエ・バーマカーン (Masjed-e Mazra'e-ye Bāmakān)
 バーマカーン集落もカザーブ地区にあり、先のカーフィーアーバードから少し山を下ったところに位置する。このマスジェドはバーマカーン集落の入口にある小さいが古いマスジェドである (写真9)。規模が小さいためズィールーの数も少ないが、そのうち一枚は古いものである。なお、そばには大型化したマスジェド・ジャーメとそれに隣接して建設されたホセイニーエが存在する。



写真9：マスジェド・マズラエ・バーマカーンの入口と内部

(14) マスジェド・アルラスール・デイロム (Masjed-e al-Rasūl-e Deylom)
 デイロムは、メイボドとその北にあるアルダカーン市の間に位置するもとは小さな村であったが、メイボド中心部からの移住者もいたようにメイボドとの関係も深い村であった。その後、アルダカーンの都市化が進み、今ではアルダカーン市に吸収され、また宅地化された結果、マスジェドも立派な建物に建て替えられた。ここでも建物内にはほとんどズィールーは敷かれておらず、建物の入り口の靴脱に6枚が敷かれるのみで、残りは2階にしまっていた (写真10)。



写真10：マスジェド・アルラスール・デイロムの靴脱

4. 事例紹介

内容に踏み込むことはできないが、ズィールーに織り込まれる文章の基本構造のみ説明し、若干のサンプルを示しておきたい。

ワクフとしてマスジェドやイマームザーデに寄進されるズィールーについては、まず冒頭に、ワクフした旨が織り込まれる。それに続いて寄進者の氏名 (親の名前も含め) とズィールー (の枚数) を寄進した旨、寄進先の名称が入る。さらに、寄進財の取り扱いの条件が入り、最後にズィールーを織った親方の名前と寄進年が入る。この他の情報が織り込まれることもあるが、基本は以上の順序であり、ズィールーの物理的なサイズの制約から寄進年や親方の名前が略さ

れることも多い。

以下に、この基本構造を示すために、マスジェド・ハーフェズ・オ・ハージ・ゼイナルに納められている2つの事例を示そうと思う。

事例1：

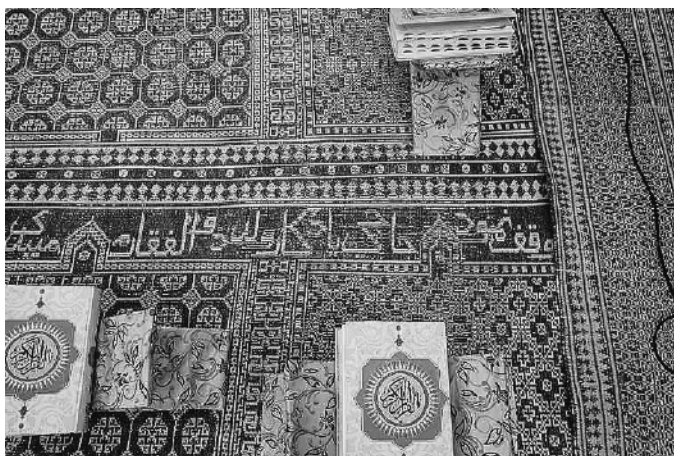


写真11：事例1の先端部分

وقف نمود حاجی یادگار ولد ذوالفقار (م) میبیدی عفت پناه صالحه زوجه مسمای مزبور این زیلو را بر مسجد نبی و حافظ بهالذنین واقع در محله بشنیغان من القصبه شرط آنکه از مسجد مزبور بیرون نبرند مگر در ماه رمضان که اگر در مسجدین مزبورین در ماه مذکور بنا شد نقل بمسجد سید قنبر نمایند اگر ضرور باشد خلاف کننده ملعون است عمل کافی ولد کاشف سنه ۱۱۹۰

[訳] 寄進した ゾルファガール・メイボッディの息子ハッジー・ヤードガールとその妻敬虔なエファット・パナーが⁸⁾ このズィールーをバシュニーガン地区にあるマスジェド・ナビー・オ・ハーフェズ・バハーロディーンに 前記のマスジェドから持ち出しを禁じるという条件で ただし、ラマザン月に前記の両マスジェドが建設工事中で、マスジェド・セイエド・ガンバルで必要な場合には送ること 違反する者は呪われる カーシェフの息子カーフィー作 1190 (西暦1776) 年⁸⁾

このズィールー (写真11) は、柄はメヘラービー、サイズは277×830cm (角が一部欠落している) である。他のズィールー同様、先に挙げた基本的な情報が織り込まれている。また、ラ

8) なお、ゾルファガールとメイボッディの間にミーム (mīm) の一文字が余計に織り込まれている。これは、メイボッディと織り込むつもりが、文字が収まりきらなかったため、直後に改めてミームの文字から織り直したためである。

マダーン月の祭り（イスラーム教徒最大の祭りのひとつ）の際には、セイエド・ガンバルで敷物が足りなければ融通するように指示が明記されている。マスジェド間の関係を読み取ることができる。

事例 2 :

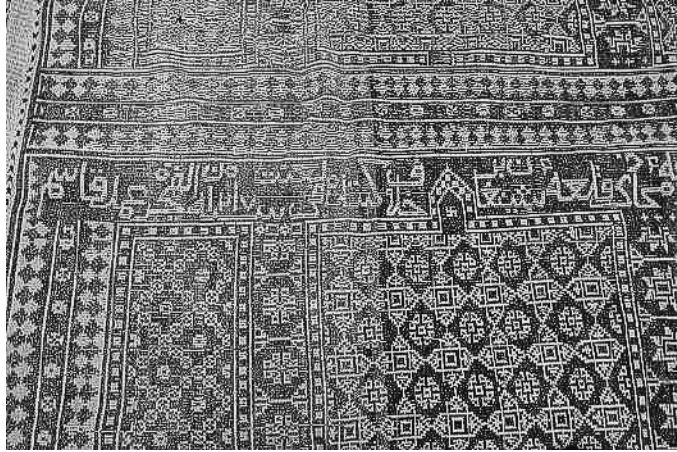


写真12：事例 2 の末端部分

وقف نموده مابگم بنت نورالدین میبدی زوجه علیمان این زیلو برا مسجد فرق مصنعه ملاحسین ولدش واقع در سر کوجه محاذی قلعه بشنیغان بر خلاف کنندہ لعنت فی سنه ۱۲۱۷ من الهجرة عمل قاسم

[訳] 寄進した アリーベマンの妻であるヌールロッディーン・メイボッディの娘、マーベゴムが このズィールーをバシュニーガーンの砦の向いにある路地の入口に位置するモッラー・ホセイン貯水槽の上部にあるマスジェドに 違反者には呪いあれ ヘジュラ暦1217（西暦1802）年から ガーセム作

このズィールー（写真12）も柄はメヘラービーで、サイズは260×350cmである。ただし、マスジェド・ハーフェズ・オ・ハージ・ゼイナルとは、別なマスジェド名が織り込まれている。つまり、最初に寄進された場所から別な場所に移されたことを意味する。このように別な施設の名称の織り込まれたズィールーを見かけることは少なくない。

このズィールーであれば、最初に寄進された施設は、現在ではなくなってしまった貯水槽（この地域では水道が普及する以前は、貯水施設が多かった）の上に設置された小規模なマスジェドであった。なお、織り込まれているように、モッラー・ホセインという人物が貯水槽とその上に存在したマスジェドの建設者である。

現在30歳代半ばの近隣住民に尋ねたところ、この小さなマスジエドで子供の頃に勉強した記憶があるという。そして、マスジエドの大きさはこのズィールーがちょうど収まる大きさでしかなかったという証言が得られた。

つまり、文字をみれば、どのような祈りの場が過去に存在したのか、あるいは無くなってしまったのかを考えることができる。また、ズィールーの大きさから祈りの場の大きさを推定することも可能な場合があるということにもなる。

IV 考察

以上、各施設の簡単な説明を済ませた。最後に、これまでの説明を踏まえた上で、表を中心に現在のズィールーの使用状況の全体的な考察をおこなう。

1. 表の注意点

ズィールーはさまざまな分類が可能であることを先に断わっておきたい。たとえば、色、柄、サイズ、織り込まれた文章、材料となる綿糸の太さなど、さまざまな要素から分類が可能である。当然述べなければならないことであるが、これらはここでは省略する。したがって、煩雑となるのを避け、ここにはズィールー寄進年「入り」、「なし」で分類し、さらに寄進年については25年ごとに区分しておいた。場所により違いはあるが、古いズィールーと新しいズィールーが同じ場所で同時に使用されており、その場所が歴史的な積み重ねの上に存在することを再確認でき興味深い。

なお、表の「寄贈年入り」の項目は、ズィールーに織り込まれたワクフとして寄進された年が織り込まれたズィールーであるが、もう一方の項目「年なし」には、3つの場合が含まれている。第一に銘文自体が織り込まれていないズィールー、第二に銘文は織り込まれているが、年が織り込まれていないズィールー、そして第三に銘文は織り込まれているが、長い年月の使用により年の織り込まれた部分が欠落したズィールーの3つが含まれる。本来であれば、この3つを区分して表に掲載すべきであるが、煩雑になることを避けるために、まとめて表に掲載した。

2. 考察

この表を基礎として、ズィールーの使用状況について考察してみたいと思う。

まず、現在でも多様なズィールーが各地のマスジエドやイマームザーデで使用されている。調査したズィールーは263枚（断片化したものは除く枚数）におよぶ、そのうち寄進年入りのズィールーは

イールーは226枚であった。内訳は、西暦17世紀に寄進されたものが2枚、18世紀9枚、19世紀40枚、20世紀169枚、21世紀6枚となっている。やはり時代をさかのぼるほどに数が少なくなる。一方、1976年以降のズイールーが105枚を数える。これに、その直前の1951～1975年のズイールーを加えれば、全体の6割を超える。

なお、ズイールー産業は1950年代以降、バシュニーガーン周辺の集落に普及してゆき、織り手が爆発的に拡大した（吉田，1992）。その意味で、内容やズイールー自体の検討まではここではできないが、1950年代前後で、生産量のみならず質や柄にも大きな変化が起きていると考えるべきである。

ズイールーの枚数が多いのは、④の71枚を筆頭に各地区の中心的なマスジェドであるマスジェド・ジャーメである。こうしたマスジェド・ジャーメでは新旧のズイールーが同時に区別なく使用されている。他方、新しい建物には、古いズイールーが少ない（⑥⑩⑪⑫⑭）。

地域の別では、バシュニーガーンやメイボドのような産地に近い場所では最近のズイールーの数も多く、新しいズイールーの寄進が続いていることがわかる。また、同じマスジェド・ジャーメでもメイボドやバシュニーガーン地区よりも田舎と表現してよいような場所に非常に古いものが残っている（④⑦⑧）。

地域の中心であるマスジェド・ジャーメで、しかも歴史の古いマスジェドほど古いズイールーを使用しているのは当然の結果である。ただし、それでは古いマスジェド・ジャーメにしか古いズイールーは残っていないかといえば必ずしもそうではなく、地域の小さなマスジェドでも古いズイールーが使われている場合がある（⑬）。

マスジェドとイマームザーデの別でいえば、イマームザーデにも古いズイールーが使用されている。しかし、革命後、イマームザーデとマスジェドが同じ建物で改築された結果、イマームザーデに寄進された古いズイールーがマスジェドで敷かれている場合も多く、かくして現在では寄進先と使用場所が一致しないことも増えた。マスジェドの重要性が増し、大型化することで、ズイールーの使われ方にも変化が生まれている。

最後に、再び時期的な点からいえば、17世紀および18世紀に入ってからすぐに寄進されたズイールーを使用しているマスジェドがある（⑦⑧）。これはなみなみならぬことである。数百年前からこの敷物の上で人々が祈りを捧げてきたことになる。イランの時代区分でいえば、サファヴィー朝期に織られたものになる。

ところが、それよりも新しい18世紀前半のものはほとんどみられない⁹⁾。時期的にサファヴィー

9) ズイールー博物館にはメイボドおよびその近郊から集められた多数の古いズイールーが所蔵・展示され

一朝末の混乱期にあたるので、この時期はズィールー生産が衰退していたと推測できる。つまり、18世紀のはじめからアフガン族の反サファヴィー朝活動が活発化し、イラン東部を寇略したのち、ついに1722年にはサファヴィー朝の首都エスファハーンを攻撃し、この時に事実上サファヴィー朝は滅びた。その後、イランは長く無秩序状態に陥ることになり、特に18世紀前半はその極みであった。その後アフシャール朝、ザンド朝を経て、ガージャール朝が成立して全土の秩序が回復されるのは18世紀末を待たなければならなかった。この土地で、ズィールーは一貫して織られ、親から子に技術の伝承がなされてきたのであろうが、このように時代の波をズィールーの使用状況からも確認できる。

V おわりに

ここでは、調査中の一部の事例から、ズィールーという敷物の使用状況をひとまず次のようにまとめておきたい。

- ①現在でも多様なズィールーが各地のマスジェドやイマームザーデで使用されている。しかも場所によっては、数百年前のズィールーと新しいズィールーが区別なく使用されている。
 - ②枚数自体は最近織られたズィールーが多いのはもちろんであるが、古いものも多く残る。ただし、18世紀前半のものは枚数が少なく、イランの社会・政治的な混乱が生産にも大きな影響を及ぼしたと推測される。
 - ③今ではズィールーをそのまま使用している場所は少なく、ズィールーの上に機械織りカーベットを敷くことや、ズィールーを機械織りカーベットに置き換え、倉庫にしまっている施設が多い。
 - ④他方、人目につかない場所ではそのままズィールーが敷かれていることが多い。つまり、2階や夏の部屋のことである。
 - ⑤革命後、マスジェドの重要性が増し、マスジェドが大型化し、あるいはイマームザーデと一体で増設されたがため、イマームザーデにワクフされたズィールーがマスジェドの敷地で使用されるようになっていく。したがって、必ずしも寄進した場所と使用する場所は一致しない状況が生まれている。
 - ⑥中心と周辺の差でいえば、周辺部で今も古いズィールーがよく残っている。他方、産地に近い場所では新しいズィールーの寄進が続いている。
- 今回、取りまとめた表は、あくまで現時点で調査しおわった範囲の資料であるが、いくつか

ているが、やはりこの時期のズィールーは少ない。

表 調査した施設で使用されているズイラー (メイボド地域およびその近郊)

地区の別 (ハシュニェーガン地区)	地区人口 (1996年)	部屋の別	計	寄 贈 年 入 り の ズ イ ラ ー												年なし	備 考	調査年月日		
				1675 ~1675	1700 ~1700	1725 ~1725	1750 ~1750	1775 ~1775	1800 ~1800	1825 ~1825	1850 ~1850	1875 ~1875	1900 ~1900	1925 ~1925	1950 ~1950				1975 ~1975	2000 ~2000
① マスジェド・ハーファエズ・オ・ハージ・セイナル		1階 2階	37															5 断片3枚は除く 1断片1枚は除く	2014年9月1日、 4日	
② セイエド・ガンバル	1,617	1階 2階	14															3 マスジェドとホセイ 0 ニエエ分も含む	2014年8月28日、 31日、9月13日	
③ マスジェド・ミールガフル		1階 2階	8															1 断片1枚は除く 1注1	2014年9月4日	
(メイボド地区)			計	1675 ~1675	1700 ~1700	1725 ~1725	1750 ~1750	1775 ~1775	1800 ~1800	1825 ~1825	1850 ~1850	1875 ~1875	1900 ~1900	1925 ~1925	1950 ~1950	1975 ~1975	2000 ~2000	年なし		
④ マスジェド・ジャーマ・メイボド		冬の部屋 奥の部屋 夏の部屋	37															1 7 26	2014年9月6日、 13日	
⑤ マスジェド・ジャーマ・ハサナアリー	1,505	冬の部屋 夏の部屋	5															2 2 0注2	2014年9月13日	
⑥ イマムサニ・デイエ・ミール・シャムス・アルハワグ・メイボド		夏の部屋	8															5 2 1	2014年8月30日	
(メイボド近郊)			計	1675 ~1675	1700 ~1700	1725 ~1725	1750 ~1750	1775 ~1775	1800 ~1800	1825 ~1825	1850 ~1850	1875 ~1875	1900 ~1900	1925 ~1925	1950 ~1950	1975 ~1975	2000 ~2000	年なし		
⑦ マスジェド・ジャーマ・ノーデシヤーン	1,929	冬の部屋 夏の部屋	15															1 2	2014年2月14日、 21日	
⑧ マスジェド・ジャーマ・ハフタードル	497	冬の部屋 夏の部屋	13	2														5 2	2014年9月5日	
⑨ マスジェド・サニ・ハブアルサマーン (ハージャーバード)	447	冬の部屋 夏の部屋	7															2 3	2014年8月31日	
⑩ イマムサニ・ハージャー・バード			5															4 1	2014年8月31日	
⑪ イマムサニ・デイエド・カーフィー (カーフィー・ハーバード)	245		1															0注3	2014年2月14日	
⑫ マスジェド・セイエド・カーフィー (カーフィー・ハーバード)			4															1 3	2014年2月14日	
⑬ マスジェド・マスラエ・バマカーン	202		3															2 0	2014年2月14日	
⑭ マスジェド・アルラヌーレ・ディオム	60	1階 2階	9															3 1	2014年9月1日、 2日	
			合計	263	2	0	1	0	1	7	9	14	12	5	15	14	41	99	6	37
				1675 ~1675	1700 ~1700	1725 ~1725	1750 ~1750	1775 ~1775	1800 ~1800	1825 ~1825	1850 ~1850	1875 ~1875	1900 ~1900	1925 ~1925	1950 ~1950	1975 ~1975	2000 ~2000	年なし		

注1: 道路を挟んだ夏の部屋は調査できず。
 注2: 別に、イラン暦「1384」(西暦2005/6)年の日付入りのクワクションが7個あり(片面がズイラー製)。
 注3: 入口のカーテンとして吊り下げて使用。
 注4: 2階は倉庫状態で、ズイラーも置込んで積上げてあった。

(単位: 枚)

の角度からズィールー使用の現状とその特徴を読み取ることができたと思う。今後は、この表をベースに、順次情報を追加してゆきたいと思う。

【付記】

本稿の執筆にあたっては、科学研究費補助金（基盤研究（C）『途上国の手工業研究の総合に向けた地理学的試み—既存研究の批判的整理と実地調査から』研究課題番号：25370926，研究代表者：吉田雄介）を使用した。

（文献）

- Ardakani, P. N. (2007) : *Pelle-ye Hashtom*, Qom: Majma'-e Zakhāyer-e Eslāmī.
- 羽田正 (1994) : 『モスクが語るイスラム史：建築と政治権力』, 中央公論社。
- 上岡弘二 (1984) : 「イラン人の宗教世界—イラン・イスラム革命に関連して—」, 上岡弘二他編『イスラム世界の人びと 1 総論』, 東洋経済新報社, 149-189頁。
- 吉田雄介 (2002) : イラン・ヤズド州メイボド地域におけるズィールー織業の展開過程, 『人文地理』, 54巻, 597-613頁。
- 吉田雄介 (2005) : イランにおける手織物生産の存続と多就業化の関係—ヤズド州メイボド地域のズィールー製織業を事例として—, 『地理学評論』, 78, 491-513頁。
- 吉田雄介 (2011) : ズィールー（綿絨毯）生産の伝承と歴史—イラン・ヤズド州メイボド地域の職人からの聞き取り—, 『関西大学 東西学術研究所紀要』, 44輯, 211-242頁。
- 吉田雄介 (2013) : 1960年代初めのイラン高原からクウェートへの国際出稼ぎ移動—イラン・メイボド地域のズィールー職人の事例から—, 『関西大学 東西学術研究所紀要』, 46輯, 131-150頁。

